

年度 2008 年 前期	曜日・校時 木 4	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション III English Communication III		
対象年次: 2 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) 2 Le	科目分類	外国語科目(英語)	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/ オフィスアワー 担当教員: 村岡三奈子 / Eメールアドレ:s:muraoka@n-junshin.ac.jp / 研究室: 非常勤講師室 / TEL: 846-0084 / オフィスアワー: 授業後またはメールにて質問を受け付ける			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代社会が抱える様々な問題をトピックに、(1) 多角的な視点から論理的に思考し、(2) 自分の意見を表現する技能を段階的に養い、(3) 最終的に英語でディベートできるようになることを目標とする。 授業方法: 原則として、毎週、テキストを1章ずつ学習する。基本的 vocabulary の習得、トピックの背景的知識を深める reading およびその summary、最後にトピックに対する賛否両論を分析する categorizing の順番で進める。予習を前提とし、毎回、授業のはじめに確認の小テストを行う。 授業到達目標: ある問題の肯定論・否定論を客観的に分析しながら、英語で意見を組み立て、伝達できること。授業の最終回に「ミニ・ディベート大会」でその成果を発表する。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要): テキストに従って、社会・文化・教育・国際関係等、幅広いテーマから、毎週1つずつトピックを選択し、問題演習を通して、総合的に英語の四技能を涵養する。 第1回 インTRODクシヨN: Definition and significance of debate 第2回 Chapter 1: Format and procedures 第3回 Chapter 2: Suggestions for classroom debate 第4回 Chapter 3: Should college English education introduce debate in the curriculum? 第5回 Chapter 4: Should the school dress code be left up to individual students? 第6回 Chapter 5: Should Japan increase female leaders? 第7回 Chapter 6: Should Japan adopt daylight saving time? 第8回 Chapter 7: Should the civil code be revised to allow different surnames? 第9回 Chapter 8: Should Japan seek permanent status on the U.N. Security Council? 第10回 Chapter 9: Should the Japan-U.S. Security Treaty be abolished? 第11回 Chapter 10: Should primary schools introduce English into their curriculum? 第12回 プレゼンテーション準備 (1) Draft # 1 第13回 プレゼンテーション準備 (2) Draft # 2 第14回 プレゼンテーション 第15回 授業の総括(試験を含む)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書: <i>Enjoy Debating</i> (EICHOSHA)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加状況: 10% 小テスト: 20% プレゼンテーション: 30% 筆記試験: 40%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			